

令和4年度第2回水道水質検査法検討会 議事要旨

1 日時

令和5年1月31日（火）13:30～17:30

2 場所

オンライン会議

3 出席者（敬称略）

委員 五十嵐良明（座長）、小林憲弘、神野透人、鈴木俊也、高木総吉、
高見澤雅彦、中村弘揮、林幸範、広木孝行、宮田雅典
事務局 横井三知貴、関塚達也、深瀬閑太郎
（以上、厚生労働省医薬・生活衛生局水道課水道水質管理室）

4 議題

- （1）検査方法告示の改正について
- （2）その他の検査法の改正について
- （3）その他

5 議事

- （1）検査方法告示の改正について

○検査方法告示等の改正事項について

「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法」（平成15年厚生労働省告示第261号）、「資機材等の材質に関する試験」（平成12年厚生省告示第45号）及び「給水装置の構造及び材質の基準に係る試験」（平成9年厚生省告示第111号）について所要の改正を行うことについて、令和4年11月21日から令和4年12月21日までの間、意見募集を行った。意見募集で寄せられた意見に対する対応方針案を検討した。

「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法」（平成15年厚生労働省告示第261号）について、意見募集時の案から一部記載内容を変更することが了承された。

今後、検査方法告示等及び関連する通知を改正することが了承された。

○検査方法告示における試薬等の調製量の検討について

検査方法告示で規定される試薬等の調製量を選択できる仕組みを作ることについて、検討を行うことが了承された。

○非イオン界面活性剤の検査におけるアスコルビン酸ナトリウムを用いた残留塩素除去の検討について

検査方法告示別表第28、第28の2で示される非イオン界面活性剤の検査において、残留塩素除去剤としてアスコルビン酸ナトリウムを使用することについて検討を行うことが了承された。

○水銀の検査における全自動機への対応の検討について

検査方法告示別表第7で示される水銀の検査において、近年の水質検査技術の向上により、前処理から測定までの一連の操作を全て自動で行う分析装置が開発されていることから、その装置を用いた場合の課題について整理を行った。

○全有機炭素（TOC）の連続自動測定法の検討について

連続自動測定法を導入するに当たり、分析装置の検査精度等の評価方法等について検討を行った。

（２）その他の検査法の改正について

○腐食性（ランゲリア指数）の検査法の検討について

腐食性（ランゲリア指数）の算定に係る水温の記載内容に誤解を生じやすい表現があることから、表現の見直しについて検討し、了承された。

（３）その他

○検査方法告示の質疑応答集の検討について

検査方法告示の質疑応答集について、国立医薬品食品衛生研究所のHPに開設することが提案され、了承された。

○妥当性評価ガイドラインの質疑応答集の改訂について

妥当性評価ガイドラインの質疑応答集について、改訂することが了承された。